

岐阜県の森林・林業

森もり林のたより

紅葉の白山白川郷ホワイトロード

No.781
2018 October

10

FREE

ご自由にお持ちください。



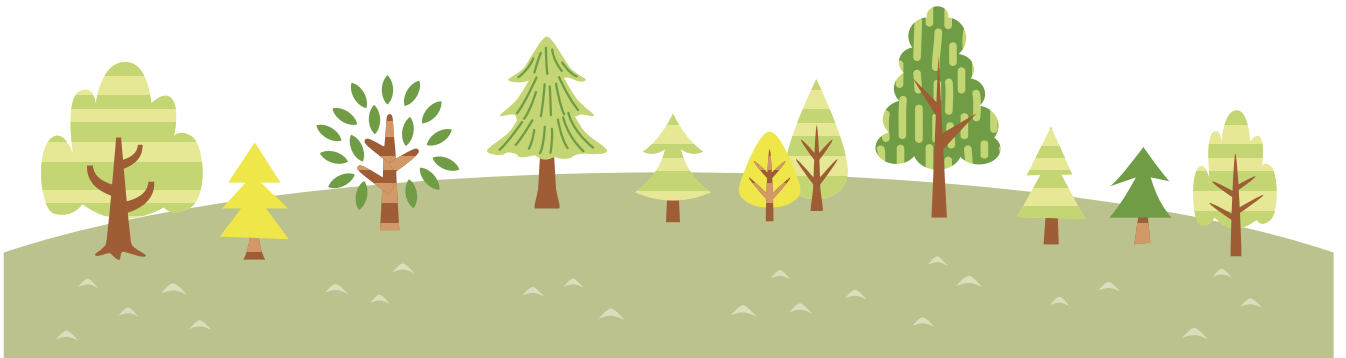
●詳しくは7ページをご覧ください。

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	開催場所 問い合わせ先
11月4日(日)	平成30年度 緑の育成と樹木 保護・保存セミナー	<ul style="list-style-type: none"> ●県民参加による森林づくりや貴重な樹木の保護・保存を推進するため、岐阜県緑の博士(グリーンドクター)協議会と共催で、~みちかな緑を大切に プロから学ぶ樹木管理~をテーマに開催します。(雨天でも開催します。) ●時間:10:00~15:30(予定) ●参加料:無料 ●事前申込:必要(別途ホームページ等でご案内します。) 	揖斐郡池田町片山 八幡公民館 (館内及び駐車場) 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL 058-273-7577 FAX 058-273-7547 E-mail gifu-ryokusui@mtj.biglobe.ne.jp URL http://www.gifu-ryokusui.jp
11月19日(月)~ 12月4日(火)	平成31年度 森林文化アカデミー 入学試験(第2回) 願書受付期間	<ul style="list-style-type: none"> ●森と木のエンジニア科(一般入試1)12月15日(土) ●森と木のクリエイター科(入試2)12月16日(日) ●入学願書(学生募集要項)については、ホームページ(https://www.forest.ac.jp/)からダウンロードできます。 	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL https://www.forest.ac.jp



市況 18 林業者向けお知らせ 17 提案・要望活動を行いました 17 林業3団体による林野庁、県選出国会議員への 16 所有者不明森林の解消に向けた自主研修会を開催 14 普及コーナー 恵那地域における普及活動 13 研究コーナー 国産トリユフの栽培化に向けて 12 可茂管内における治山施設点検結果に基づく今後の検討 12 治山・林道研究課題 11 森づくりと人づくりの共通価値を創造する 11 森林と人を活かす知恵(70) 10 洞窟で生活している、ゴキムシ類 10 シリーズ『森林・環境税』で緑豊かな清流の国ぎふづくり(5) 9 飛騨市・広葉樹のまちづくり 8 わがまちの森林・環境行政(22) 7 白山白川郷ホワイトロードの紅葉 7 ぎふの木のおもちやなどの貸し出しについて 6 表彰式を開催! 6 「岐阜県緑化功労者」及び「岐阜県林業経営コンクール」の 6 国内外への県産材需要拡大プロジェクト 5 可児市子育て健康プラザ「manolo」 5 木の香るぎふの施設(68) 4 山の歳時記(158) シンウッド2 4 ぎふ木育WEEKを開催しました 3 イベントカレンダー(一般向け) 2	目次 Contents	岐阜県の森林・林業 News of the forest <h1 style="text-align: center;">森のたより</h1> <p style="text-align: center;">No.781 10 2018 October</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center; font-size: small;">表紙 ● 紅葉の白山白川郷ホワイトロード</p>
---	-------------	---

ぎふ木育WEEKを開催しました



8月の「ぎふの山に親しむ月間」と国民の祝日である「山の日」(8月11日)に合わせて、県民の方が楽しみながら、ぎふの山や森林・自然・林業のことを考えていただく機会として、8月5日(日)~11日(祝・土)にかけて、ぎふ木育WEEKとして開催しました。

山の日フェスタぎふ2018

8月5日(日)、JR岐阜駅アクティブGにて、「山の日フェスタぎふ2018」を開催しました。

ぎふの山や自然の魅力・森の恵みを「楽しむ」、「知る」、「味わう」をテーマとした体験型のイベント、夏休みということで、会場は多くの家族連れで賑わい、約1,000人の参加がありました。

森の恵みを使った、松ぼっくり工作、リンバージャック作り、木の枝のキーホルダーづくり、木杓を使った時計作りなどワークショップや、ぎふの木のおもちゃ広場を設置するなどして、子供から大人まで様々な人を楽しんでいただきました。

また、アクティブG内の協賛飲食店では、県産材を使用した割り箸を利用していただき、大人の方にも、「山の日」やぎふの森林、木材について知っていただく機会となりました。



ぎふ木育キャラバン

8月10日(金)、11日(祝・土)、ぎふ清流文化プラザにて、「ぎふ木育キャラバン」を開催し、約1,600の方が来場されました。毎年盛況なため、今年は2日間開催し、「東京おもちゃ美術館」と「ぎふの木のおもちゃ」から約100種類を集めて配置したり、つみぼぼ世界選手権や、竹トンボや割り箸でつぼうなど、自然素材から昔ながらのおもちゃを作るワークショップなどを行いました。

木のおもちゃは、幅広い年齢の方が一緒に遊ぶことができます。この日も親子で一緒に遊んだり、子供に説明しているうちに大人の方が夢中になったり、初めてのお友達と一緒に積み木を高く積み上げたり、来場者は木に触れて親しみながら思い思いに遊んでいました。

また、10日(金)の夜には大人を対象とした「大人の木育ナイトキャラバン」を開催しました。会場では、参加者全員で講師の方に遊び方を教わったり、自由に遊んだり、昼間の子供たち以上に笑顔や笑い声が絶えず、木のおもちゃは大人同士のコミュニケーションツールとしても効果的であると感じられました。

県では、ぎふ森づくりサポートセンターで「木のおもちゃ」を貸し出したり、県内各地の児童館などに「ぎふ木育ひろば」を設置し、県内のどこでも「ぎふ木育」が体験できるよう取り組んでおります。

「ぎふ木育」が県民の皆さんに広く認知されるように引き続き取り組んでまいります。





文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

ある日、友人にシシウドの話をすると、「以前、伊吹山で買った『薬湯伊吹百草』は神経痛や冷え性に良く効いた。その入浴剤にはシシウドとオオヨモギが入っていた」と教えてくれました。

伊吹山周辺は織田信長の時代から、葉草の里としても有名です。

そこで今ごろであれば、伊吹山のお花畑に咲くシシウドを眺めながら『薬湯伊吹百草』を探せるのではないかと思ひ伊吹山に向かい

ました。

関ヶ原町から伊吹山ドライブウェイを経て、駐車場から徒歩で山頂を目指す、登山道脇のそこかしこで、シシウド (*Angelica pubescens*) の白い花を見ることができました。

シシウドは生薬では独活(どっかつ)と呼ばれ、鎮痛や鎮静、血管拡張に煎じて服用し、リュウマチや神経痛、冷え性に薬湯として利用され、学名からも葉草としての効能がうかがえます。

属名の *Angelica* (アンジェリカ) はラテン語の「angelus (天使)」が語源です。これは *Angelica* 属に強心剤的な効果がある植物があることから、「死者を蘇らせることができる(かもしれない)」と考えられたためです。

Angelica 属の植物はヨーロッパでは、古くから信仰と深い結びつきがあり、それはある天使がネズミによって媒介されるペストに効

果的であると予見したことから始まったとされます。また同時に、魔女や悪魔の唱える呪文も封じることができるとも考えられていたようで、ヨーロッパでは慢性病の治療薬や魔除けとして利用していたようです。

ちなみにシシウドの種小名 *pubescens* は「細い軟毛のある」という意味で、これは葉に軟毛が生えているためです。

葉草としてのシシウドについて見ると、中国、明の医師で本草学者である李時珍が記した薬学書『本草綱目』には、「一本の茎を立て、風に揺られず、故に獨活と曰う」という記述があるようです。

ただし、中国で言う「獨活」はシシウドだけに限らず、ウコギ科のウドやセリ科のシシウドなども含んだ総称でした。

また平安時代に記された日本最古の薬物辞典『本

草和名』や平安中期の辞書『倭名類聚抄』に記されている「宇末世利(うませり)」はシシウドを指していると考えられています。

シシウドなんてどこにでもあり、ほとんど食用とされないことから見向きもされない植物の一つですが、意外にもシシウドエキス入りの美肌クリームやサプリメントが販売されています。

さて、伊吹山では『御百草』など様々な葉草入浴剤を見たのですが、私が目指した『薬湯伊吹百草』は見つけられず、大量に咲いていたシシウドの花を眺めながら下山となったのです。



▲種子をつけたシシウド

可児市子育て健康プラザ「mano」

可児市下恵土5076



①施設全景

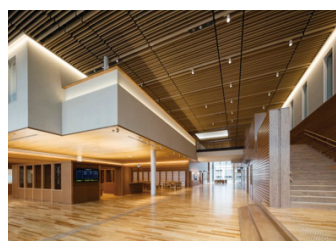
施設概要

事業年度	平成29年度
事業主体	可児市
構造・延床面積	鉄骨造3階建て 9,075.24㎡
施設用途	複合施設
木材使用量 使用樹種	県産材使用量 93.4㎡ 主な使用樹種 スギ・ヒノキ
事業費	2,628,210千円 (建築)
助成額	13,700千円
設計者	香山壽夫建築研究所
施工業者	岐建・佐伯・三和木特定建設工事共同企業体 (建築)
工期	平成28年9月～平成30年3月

可児市子育て健康プラザmanoについて

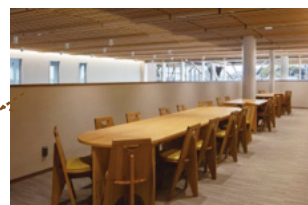
可児市子育て健康プラザmanoは、本市の重点方針の一つ「子育て世代の安心づくり」の実現に向けた子育ての総合的な支援に加え、市民の健康づくりや、交流の推進を目的とした複合施設です。

愛称の「mano」はイタリア語で「手」を意味します。木のあたたかみあふれるmanoでは、市民、地域、行政が「手」を携え、様々な方法で市民サービスを展開し、「『可』能性あふれる『児』(こ)どもがそだつまち・可児」のシンボルとして末永く愛される空間となるよう努めてまいります。



②内装には県産のスギ、ヒノキ材を使用

③家具には県産のナラ材等を使用



ここに注目!!

家具や内装には、ふんだんに県産材を使用しており、木の温かみを感じながらくつろいだり、交流したりできる場となっています。

利用者の様子

子育てサロン「絆(きつずな)る～む」や中央児童センター「にこっと」では、県産材に囲まれた空間で、親子でくつろぎ遊ぶことができます。

また、駅前という立地から、夕方になると中高生が多く来館し、勉強したり談笑したりする光景が見られます。



④木のぬくもりに囲まれて親子がくつろぐ「絆る～む」

写真:小川 重雄 (①～③)・可児市 (④)

■問い合わせ先

可児市こども健康部子育て支援課

TEL 0574-62-1111 (内線5541)

国内外への県産材需要拡大プロジェクト

首都圏・中京圏や海外への販路拡大

人口減少による木材需要低迷や住宅様式の変化によるヒノキ需要減少などへの対応が求められる中、首都圏・中京圏及び韓国を中心とした海外への販路拡大に取り組んでいます。

昨年度は、東濃桧や長良杉等の販売促進を図るため、「モクコレ2018(東京都)」、「木と住まいの博覧会(名古屋)」などでPRを実施したほか、韓国で開催された住宅資材展示会「KOREA BUILD 2018」に県内企業とともに出展しました。

また、「ぎふの木で家づくり支援事業」により県外に建設される県産材住宅に1棟あたり20万円の助成、東京2020オリ・パラ大会関連施設での採用に向けた新製品開発への支援なども行いました。

今後は、引き続き国内外イベントへの出展、県外住宅への助成、東京オリ・パラ関連施設での利用促進などに取り組むことに加え、民間事業者と連携して首都圏住宅展示場でPR活動を行うなど、販路拡大の取組みを強化し進めてまいります。



モクコレ2018



KOREA BUILD 2018

国内外への県産材 需要拡大プロジェクト

県産材を活用した新用途・新製品の研究開発・普及や、首都圏・中京圏等への販路拡大を行うとともに、韓国を中心としたアジア圏への需要拡大に取り組むプロジェクトです。

【県産材流通課 二木 次郎】

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 県産材流通課まで

「岐阜県緑化功労者表彰」及び「岐阜県林業経営コンクール」の表彰式を開催！

県では、多年にわたり緑化運動への功績が顕著であった個人・団体を「岐阜県緑化功労者表彰」として、また優良な林業経営を行う林業経営者・法人・団体等を「岐阜県林業経営コンクール」において決定し、毎年表彰しています。このたび、4者（個人・団体）の方が受賞され、9月14日に岐阜県庁で表彰式を開催しました。



【恵みの森づくり推進課 福井 樹】

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8473 恵みの森づくり推進課まで

受賞者

●岐阜県緑化功労者表彰

東白川村立東白川中学校(東白川村)
丹羽 忠幸さん(下呂市)

●岐阜県林業経営コンクール

【団体】

特定非営利活動法人 奥矢作森林塾(恵那市)

【個人】

牧岡 幹雄さん(垂井町)

ぎふの木のおもちゃなどの貸し出しについて

～ぎふ森林づくりサポートセンターより～

ぎふ森林づくりサポートセンター（通称「サポセン」）では皆さんの森林づくり活動、木育の取り組みを支援しています。森づくり活動を行うにあたり、「用具がない、足りない」とか、イベントの際に「木のおもちゃで遊べる木育ひろばをつくりたい」などのお悩みはありませんか？ サポセンでは、活動の際に必要な用具の貸し出しを行っておりますのでご紹介します。

●貸し出し用具

森づくり用具：ヘルメット（大、小）、のこぎり、剪定ばさみ、草刈鎌など
木のおもちゃ：まあるいつみき、音鳴る積み木、つみぼぼ、J・ブロック、コロコロ積み木、バランスレール、木馬育、おうちごっこ、ばらんすぼーる等16種類、床敷きマット、木製床パネルなど
その他：森づくり解説パネル、森林・環境税パネル

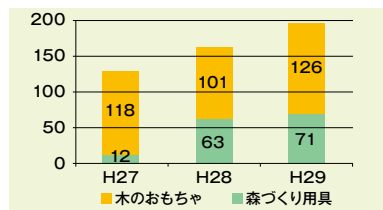
●貸し出し方法

サポセンに用具等の空き状況を確認した後、県庁へ申請書を提出してください。

●貸し出し場所

県庁、森林文化アカデミー、恵那農林事務所、飛騨農林事務所

貸出件数の推移（H27～H29）



貸し出し用具 回数ランキング（H29）

順位	森づくり用具	木のおもちゃ
1位	ヘルメット 大	まあるいつみき
2位	ヘルメット 小	つみぼぼ
3位	のこぎり	音鳴る積み木
4位	剪定ばさみ	めたもっく
5位	草刈鎌	J・ブロック



まあるいつみき



J・ブロック



つみぼぼ

●利用者意見

- ・木のおもちゃの数も種類も多く、子供も大人も木にふれて楽しんでた。（子育て支援施設）
- ・イベントで「ぎふの木のおもちゃコーナー」をつくったところ、お客さんから好評でした。（木材関連会社）

●その他

サポセンでは、用具の貸し出しのほか、森林環境教育や木のおもちゃの指導者の紹介、野外活動の安全対策講習会の開催、森で活動する団体の情報発信など行っております。

森づくり、森林環境教育、木育などでお困りのことがありましたら、お手伝いしますので「サポセン」までご相談ください。

問合せ先

住所：岐阜市藪田南2-1-1 岐阜県庁8階 恵みの森づくり推進課内 ぎふ森林づくりサポートセンター 担当：田中又は長屋
 TEL:058-272-8821 FAX:058-278-2702 E-mail:c11513@pref.gifu.lg.jp

白山白川郷ホワイトロードの紅葉

白山白川郷ホワイトロードは、9月下旬より紅葉が始まっており、標高差が大きいため、11月上旬までの長い期間にわたって紅葉を楽しむことができます。

美しい紅葉は、県境の三方岩岳から始まり、麓へとおりていきます。展望台や車窓から眺める赤や黄色の紅葉は、針葉樹の緑に映えてとても鮮やかです。

石川県側では、色づいた紅葉が、勢いよく流れ落ちる雄大な滝をより一層美しく見せてくれます。

また、白川郷では、10月中旬はどぶろく祭りの季節です。里の木々も赤や黄色に色づき、秋の訪れを感じさせてくれることでしょう。

鮮やかに彩られる白山白川郷ホワイトロードの紅葉をぜひお楽しみください。

なお、紅葉情報はホームページにて随時更新していますので、お出かけの際はご覧ください。

●通行料金：普通自動車 1,600円 軽自動車 1,400円

●営業期間：11月10日まで（予定）

●利用時間：8時～17時（出口閉門時間 18時）
 （ただし、9月22日から10月21日までは、
 モーニングタイム実施のため、7時～17時）

●ホームページ：<http://hs-whiteroad.jp/>



▲雲海と紅葉

お問い合わせ先

（公社）岐阜県森林公社 白山林道岐阜管理事務所
 TEL/FAX 05769-6-1664



【治山課 増田 龍太】

飛騨市・広葉樹のまちづくり

飛騨市の概要

岐阜県最北に位置し、通称北アルプスと呼ばれる飛騨山脈の豊かな水と広大な緑に囲まれた飛騨市は、標高2000mから2800mに至る典型的な中山間地です。

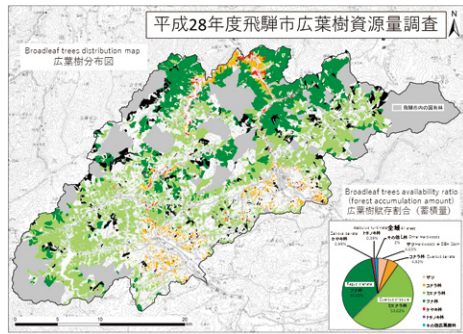
飛騨市は全国有数の森林県である岐阜県の中でも広葉樹の資源量がとても豊かで、岐阜県森林・林業統計書(平成30年3月発行)によれば、森林面積は市内全域の9割以上を占めるおよそ74,000ha、うち民有林に占める広葉樹の面積割合は約6割の36,600ha、林齢のピークは、ざつと70年生くらいになります。

しかし、平成28年度に飛騨市が市内全域の民有林を対象に広葉樹資源量を調査したところ、その面積は統計数値よりもずっと多く、市内民有林の約7割を広葉樹が占めていることがわかりました。

内訳としてはミズナラ・ブナの賦存量が圧倒的で、市北部へ行くに従って胸高直径が大きくなり、70cmを超えるミズナラやトチが確認された一方、市全域のデータを単純に平均すると、胸高直径はおよそ70年生には似つかわしくない僅か26cm程度しかないことが明らかとなりました。

広葉樹に関する資源情報は、些か精緻さに欠けることは半ば周知の事実ではありますが、さすがに胸高直径については厳しい

現実を感じざるを得ませんでした。



▲平成28年度飛騨市広葉樹資源量調査

とはいえ、現在の市内広葉樹の利用実態を概観してみると、確かに主たる用途は建築・家具用材ではなく、製紙や燃料用チップ材、薪などです。

そして「木が太くない」ことを理由に、広葉樹の森では今もなお皆伐・天然更新が一般的ですから、この繰り返しを続けていては、幾ら豊かな広葉樹に恵まれた飛騨市であっても、建築・家具用材を確保することは非常に厳しいといえます。

こうした事実を前にして考えるのは、今後、飛騨市が取り組むべきは、今ある針葉樹人工林から得られる利益をしっかりと確保する一方で、細く使って使えないと言われ

る広葉樹が目的の太さとなる、例えば50年後に向けて、今から積極的に、しかし必要最低限のコストで、複数の価値ある広葉樹を育て始めると同時に、「使えない」と言われている広葉樹小径木の新しい価値を模索していくことなのだろうと思います。もちろん「言うは易く行うは難し」ではありません。

新たな木づかい文化を育む飛騨市

平成27年5月、飛騨市は(株)ビムシ、(株)ロフトワークとともに、「(株)飛騨の森でクマは踊る(通称ヒダクマ)」を起業しました。

ヒダクマの主な事業内容は、飛騨市産の広葉樹を使った木製品の加工販売、幅広いネットワークで世界中から建築家やデザイナー等を受け入れる合宿のプロデュース、そしてクリエイターたちの交流・モノづくり拠点となるFabCafe Hidaの経営です。

今回は紙面の都合で詳細は割愛しますが、ヒダクマでは、形質、量ともに不揃いな広葉樹小径木に、斬新なデザインと新しいモノづくりの発想をプラスして広葉樹小径木の高付加価値化に取り組んでいます。

レーザーカッターや3Dプリンターなどを用いる最新のデジタル技術、脈々と受け継がれてきた飛騨の匠の伝統、そして緑豊かな飛騨の広葉樹を融合させた、まさしく「新たな木づかい文化」の源になっています。

飛騨市におけるブランド化の取り組み

飛騨市の森林・林業・木材産業は今、「広葉樹のまちづくり」というキーワードのもとで大きく変化しつつあります。

平成29年度には、飛騨市産の広葉樹で様々な製品を創作する新たなブランド「ひだ木フト」が、市民主導で立ちあがりました。

プロジェクトを牽引するメンバーは、森林組合や製材所、木工作家、商品開発プロデューサーなど多士済々な顔ぶれですが、何れも飛騨市を中心に活躍する人たちです。

そして初年度の製作テーマには「広葉樹×ブライダル」が選ばれ、樹形を模した結婚証明書やファーストバイト用の皿とスプーン、指輪交換で使うリングピローなど、飛騨市の広葉樹が世界に一つだけの「特別なモノ」へとその姿を変えました。

これからも飛騨市の広葉樹ブランド「ひだ木フト」は、出産や入学、就職など、人生の節目ごとに大切な人への贈り物として、皆さんの暮らしを彩ってくれることでしょう。



▲「ひだ木フト」試作品一覧

【飛騨市役所 林業振興課 中村幹広】

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0577-6218005

飛騨市役所 林業振興課まで

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

5

平成24年度より県民みんなで豊かな自然環境を守る仕組みとして導入した「清流の国ぎふ森林・環境税」は、平成33年度末まで5年間延長されました。税活用事業の内容も見直しをしましたので、新しい内容の事業を含め連載で紹介します。

生物多様性に配慮した地域づくり普及推進事業

岐阜県では、県民の皆様に生物多様性の保全・再生について理解を深め、行動につなげていただくために、生態系に悪影響を及ぼす外来生物や、県内に生息する希少な淡水魚などをテーマに普及啓発を行っています。

■平成29年度に実施した普及啓発活動の一部をご紹介します。

【生物多様性に配慮した地域づくりシンポジウム】

「希少淡水魚ハリヨの保全について学ぶ」と題し、平成29年10月21日（土）、岐阜経済大学にてシンポジウムを開催しました。世界でも岐阜県の西濃地方と滋賀県の東部だけに生息している希少淡水魚「ハリヨ」の保全について、森誠一先生（岐阜経済大学教授）による基調講演や、加賀野水保存会、西之川ハリヨ保存会、池田町ハリヨを守る会による生息地域での保護活動、県立大垣東高等学校の生徒による研究活動の成果が発表されました。

参加者のアンケートでは、86%の方に「生物多様性の保全につながる希少野生生物保護活動に参加したい」と回答をいただき、また、「自分たちが何をしたらいいのかわかっていく必要があると思った」や「定期的な学習会の機会があるべき」という意見もいただいております、生物多様性の保全について積極的に考えていただく良い機会となりました。



森誠一先生による基調講演：
「郷土財としてのハリヨ：その実態と保全」



県立大垣東高校の生徒による研究発表



ハリヨの保護活動や研究に関する展示

【イタセンバラを活用した生物多様性の普及活動】

木曽川水系で絶滅が危惧されている「イタセンバラ」について、岐阜県水産研究所では、野外池で繁殖させる技術に関する研究をしており、繁殖に成功したイタセンバラを活用し、希少種の保全について普及啓発を行っています。

羽島市内の3つの小学校では、水産研究所で繁殖したイタセンバラの飼育を行っています。児童の皆さんに、身近な自然に生息する希少な野生生物に対する愛着や保全につながる意識を育んでもらうよう、水産研究所の職員がイタセンバラの生態や絶滅に瀕している原因などについて講義を行いました。



水産研究所で繁殖したイタセンバラ



飼育係の皆さんと
イタセンバラを水槽に入れながら、
生態や飼育方法を説明



希少種の保全等に関する講義



山のおじまむし



— 洞窟で生活している、ゴミムシ類 — 【第327回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

平成30年6月下旬、タイ国でサッカークラブの少年12名とコーチ1名が洞窟で遭難した。洞窟内に大量の水が貯まり、出られなくなったのである。その場所へダイバーが行き、少年達に会った。電灯で光をあてた姿がテレビで放映された。皆が笑顔で手を振っていた。そして、発した言葉が「今日は何曜日ですか」だった。暗闇の中で何日も過ごしたとは思えなかった。しかし、ここを抜け出すのは難しい。潜水服を着て酸素ポンペを担ぎ、経験豊富なダイバーに守られながら何時間も水中を泳がなければならぬからだ。それを少年たちが出来るだろうか。無理だろうという意見が多かった。しかし、このままでは洞窟の水は増えていくばかりだ。最悪の結果になるかもしれない。10日後、救出作戦が開始された。この様子は連日テレビで放映され、多くの人はテレビの前に釘付け。私もその一人だった。第一関門突破。まず4人が救出されたのである。10数時間も水との闘いだった。よかった。これなら大丈夫だと思った。その後も救出作戦は続けられ、全員が救助された。数日後、病院にいる少年達の姿が映し出された。皆が笑顔で、中には手を振っている子もいた。この小さな子供が、あの真っ暗闇の洞窟の中で何日も過ごした。どんな気持ちでいたのだろう。怖かっただろうな—と思った。

× × × ×

と言うのは、私自身も洞窟で怖い目にあったことがあるからである。今から52年前の6月、当時の宮川村（現飛騨市宮川町）で鍾乳洞（洞窟）が見つかった。村は大喜びでここを観光地にするという話が出てきた。しかし、この洞窟を開発すれば何百、何千万年続いている洞窟内の自然が消滅してしまう。そこで、開発する前にこの洞窟の生物を調べることになった。団長は国立科学博物館のU博士で、調査メンバーは10数人であった。この昆虫調査員に故T氏と私が選ばれた。洞窟に昆虫がいるのだろうか。いればどんな昆虫だろう。胸がわくわくした。午前6時、現地集合。しかし、洞窟の入り口などない。あるのは人間1人がモグラのように這って進めるような穴があるだけ。この穴へ次々と調査員が入り、地面を這って進んだ。顔をあげると壁に頭をぶつけるので、芋虫のように這うだけだ。きつかった。それでもひたすら前へ進んだ。30分ほどしたら歩けるような空間になった。しかし、懐中電灯を消すと真っ暗。近くにいる人も見えない。こんな所に昆虫などいるはずがないと思った。

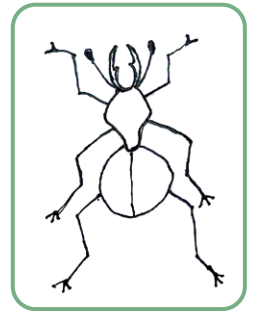
× × × ×

それから1時間くらい経ただろうか。広い空間になった。その時「パタパタ」と大きな音がした。コウモリだった。天井にぶ

ら下がり休んでいたコウモリが懐中電灯の光に驚いて飛び立ったのである。大集団だった。その下にはコウモリの糞がたくさん落ちていた。その糞を懐中電灯で照らした。驚いた。昆虫がいたのである。大きさが1cm、色が薄茶色でどこにもいるような昆虫だった。しかし、暗闇の中で生きているという生命力に感激し、高貴で光り輝く神秘的な虫に見えた。その後も必死になって探し、3匹採集した。別の場所へ移り、再び地面を照らして探した。突然、灯りが消えた。懐中電灯が故障したのである。真っ暗で何も見えない。どうしよう。体から血の気が引いた。大きな声でT氏を呼んだ。何回も呼び続けた。しかし返事がない。ここから出られないのではないか。どうしよう。恐怖で気が動転した。その時「おーい。野平君」とT氏の声。よかった。この時の安堵感は今でも忘れることが出来ない。

× × × ×

私が真っ暗な洞窟に1人でいたのは30分くらい。それでも怖かった。死ぬのではないか。そんなことまで思った。それがタイの少年たちは10日間もいたのだ。しかも食べ物はな



▲こんな姿をしていた洞窟のゴミムシ

い。水だけでいたというのだから、すごい精神力だ。この精神力を支えたのがコーチの青年だ。特に少年達がパニックに陥らないよう座禅を組ませて心を鎮めていたという。この青年がいたから全員救助された。そんな気がしてならない。この少年達に比べ、私の経験。今となると笑い話どころか、口にする事自体が恥ずかしい。冷や汗が出てくる。それにしても月日の経つのは早い。この笑い話はもう半世紀も前の話で、すっかり忘れていた。それが、今回の洞窟遭難救助のニュースで思い出し懐かしかった。この時、団長から暗闇で生活している昆虫は見たり飛んだりする必要がないので、眼や翅は着いていないことと、餌はコウモリの糞だということを知ってもらった。大変勉強になった。これが洞窟で生活している昆虫の知恵なのかと感心したものである。その後、この洞窟へは出かけていない。しかし、開発されなかったので、今でも洞窟内の自然は残っているはずだ。そこには眼と翅の無い、あのゴミムシの子孫がコウモリの糞を食べて生きているであろう。その光景が目に見えなくなる。



森づくりと人づくりの 共通価値を創造する

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 松井 勅尚

● 担い手の育成はいつから？

森林文化アカデミーが開学して18年。森と木に関わる仕事の担い手の育成に関わってきました。入学する学生たちに毎年聞き続けてきたことがあります。「いつから森や木の仕事を目指したのか？何がきっかけになったのか？」

岐阜県の森林率は81%。この資源を『宝の山』へとつなげることが出来る人材育成が急務であります。そこで、すべての子供たちが、産まれ育った地域を誇りに想い、古里を愛し暮らしていく人づくりと、森林率90%を誇る郡上市の森づくりを上げることを目的とした試みを郡上市の幼児を対象に始めました。

● きっかけは中津川…

二〇一三年度。中津川市環境生活部の依頼で『幼児向け環境教育カリキュラム構築事業』の監修を請け負いました。木のスプーンづくりを年長児に対して地域のプ

レーヤーと保育士が協力して実践する取り組みです。その実践から3年が経過したある日、一通のメールを頂きました。

「三月の卒園式で卒園児が自分が将来やりたい職業が書いてありました。その中で『大工さん』と記した子が4〜5人いました。かつて、肥後の守(簡易な折りたため式刃物を使っていた頃は当然のように『大工さん』希望がいましたが、ここところ久しく見かけませんでした。園の取り組みとしては3年経ちました。そんな中で『大工さん』が夢として出てきたことにとても感激しました。」(中津川市北野保育園主任保育士)

この知らせに私はスプーンづくりという体験が、担い手を育成するための可能性を秘めていると感じました。

● そして、郡上で新たな試み…

二〇一八年度。清流の国ぎふ地域提案事業「郡上森づくりと人づくりを結ぶ木育研修事業」が、採択されました。この呼

びかけに公立も私立も参加している郡上市内の「郡上市保育研究会」の賛同を頂き、地域提案事業として申請して頂けたのです。

教材は、スプーンよりも食事で出番の多い箸に変更し、先ずは年中児の担任保育士が研修を受けその後、担当しているクラスの園児に教えます。年中児が自分で箸をつくる実践は、岐阜県内や愛知県で監修し成果を挙げています。

「木から命を頂いているということが親子で実感できました。」
(愛知県大口町年中児保護者の感想)

● ヤマザクラの箸づくり

そして、八月から保育士の研修が始まりました。

今回注目して頂きたい事は、地域の林産業に関わる方がこの事業に参画することです。意見交換を繰り返しながら林産業に関わる方々にも無理のない参加方法を模索中であります。



郡上森林組合との打ち合わせ風景
手前は次年度目指したい年長児が自分でつくる郡上産の杉の箱椅子。



はちまん幼稚園を会場にして開催した保育士研修風景
毎日多忙な保育士さんが一堂に集まれる日は、8月中でたった1日しかありませんでした。

郡上のすべての子供たちと森の将来のために林産業者と保育士が協力する機会が箸づくりなのです。「子育ては女性任せ」「林業は男の仕事」ではなく、切っても切り離せない関係として、人づくりと森づくりをつなげるための大切な価値があるはずです。

十一月からは、いよいよ各園で年中児の箸づくりが始まります。

木や森の仕事を「憧れの仕事」として目指してくれる子どもたちが出てくれることを願っています。

治山・林道研究課題

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。今年2月に行われた発表会で発表された研究課題を紹介いたします。

可茂管内における治山施設点検結果に基づく今後の検討

可茂農林事務所 林業課

はじめに

治山施設点検は、施設がその機能を十分に果たしているか、また、施工後、時間の経過や周辺環境の変化により破損等の異常が発生していないかを調査するために実施しています。

この点検で得られた情報は、その異常の内容や程度により修繕の緊急性を判定し、今後の修繕計画に役立てていきます。

しかしながら、点検によって「緊急に修繕が必要」、「計画的に修繕を実施」と判定された対策施設が複数報告された場合にどの施設から優先的に実施してよいか判断する方法がありませんでした。

そのため、可茂農林事務所では、独自に優先順位を決定するための指標と、その指標による順位決定方法を考案しましたので紹介します。

点検項目と判定

点検項目は施設の種類によって異なります。例えば、治山施設の中でも最も数が多い治山ダム工では、本体コンクリートに亀裂、変状はないか。ダムの基礎部や水印部に洗掘はないか等です。

それぞれの施設の点検によって得られた結果は、修繕の有無または緊急性の判

定に利用し、次のように4つのランクに分けます。(図-1)

- ・緊急に修繕が必要(ランクS)
- ・修繕対策施設として計画的に修繕を実施(ランクA)
- ・施設の機能は維持されているため経過観察(ランクB)
- ・異常なし(ランクC)



(図-1)

修繕対策施設の優先順位決定方法

対策施設毎に、次の5つの指標の優先度(図-2)を確認し、その組合せで優先順位を決定します。

【指標】

1. 直接的な保全対象の有無
2. 機能(本体)の健全度
3. 今直すとコストは小さくなるか
4. 重機はアクセスできるか
5. 他施設により保全できるか

方法(指標の設定)	優先度		
	高	低	中(なし)
○指標の設定(目視)			
1. 直接的な保全対象の有無	あり	なし	判断できない
2. 機能(本体)の健全度	機能なし	機能あり	判断できない 中程度
3. 今直すとコストは小さくなるか	小さい	大きい	判断できない 変わらない
4. 重機はアクセスできるか	容易	困難	判断できない
5. 他施設により保全できるか	できない	できる	判断できない

(図-2)

最初に、それぞれの箇所(表1・1行一箇所)について、最も重要な指標である「直接的な保全対象の有無」で2つの纏まり①(有)、②(無)に分けます。

次に、最初に分けた纏まり①、②毎に他の4つの指標で優先度の「低」があるかないかでグループ分けします。また、「低」がある場合はその該当数が多い箇所の順位を下げます。

優先度の「低」がないグループ1は、5つの指標のうち「機能(本体)の健全度」「今直すとコストは小さくなるか」の順に優先度が「高」であるものを上位にします。これは、治山施設の機能を回復させる、少ないコストで修繕をすることを重点としています。

優先度の「低」があるグループ2及び3は、「他施設により保全できるか」、「重

機はアクセスできるか」の順に優先度が「高」であるものを上位にします。こちらは、他施設がなく治山施設が重要になるもの、重機がアクセスできるため工事がしやすいものを上位にしています。

このようにして修繕優先順位を決定しました。

方法と結果		優先度					順位	
工種	部位	状況	直接的保全対象	機能(本体)の健全度	今直すとコスト	重機アクセス		他施設によるか
フレハブ流路工	本体側壁	崩壊						1
土留工(空石積)	本体基礎	崩壊						2
谷止工(鋼製スクリーン)	本体水表	満砂			グループ1			3
床固工(コ)	本体基礎	洗掘	①					4
谷止工(コ)	袖圍基礎	洗掘						5
落石防護柵	本体基礎	洗掘			グループ2			6
土留工(コ壁壁)	本体基礎	洗掘						7
谷止工(コ)	放水路天端	洗掘						8
土留工(練石積)	本体基礎	崩壊	②		グループ3			9

(表-1)

まとめ

可茂農林事務所では考案した5つの指標の組合せによる順位決定方法を紹介しますが、今後、更に修繕対策施設数が増えるにつれて、この方法で決定できないケースも現れることが想定されます。

指標の組合せを基本にしながらも、分かりやすく利用しやすい決定方法にするため、新たな指標の追加や決定方法の改良が必要と感じています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0574-251311(代)

可茂農林事務所 林業課まで

国産トリユフの栽培化に向けて 感染苗木を植栽する

森林研究所 ● 水谷 和人

○トリユフは菌根菌

トリユフは、世界三大珍味の一つにも数えられる高級食材です。海外では石灰岩地帯のアルカリ土壌を好むとされ、ブナ科樹木などの根に菌糸を共生させて菌根を作る菌根菌です。近年、国内で黒トリユフも白トリユフも自生することがわかってきました(図1)。

現在、国産トリユフの栽培化を目指して、野外に生育するクヌギやコナラなどの成木の根系にトリユフ菌を接種して新たに菌根を形成させる研究を実施しています。今年は、接種源として国産トリユフの感染苗木を作成し、クヌギやコナラ林に植栽を行ったので、その内容について紹介します。

○感染苗木を作成する

接種源となる感染苗木は、コナラの実生苗木に、国産トリユフの胞子や培養菌糸、発生地を接種して作っています。確実に作成できる条件は明らか

ではありませんが、黒トリユフも白トリユフも感染苗木が少しできました。

クヌギやコナラ林に感染苗木を植栽して、トリユフの菌根を形成させるためには、第一にクヌギやコナラの成木の細根を増やすことが重要です。トリユフ菌が感染して菌根を作るのは直径2mm以下の細根だからです。

○細根生産量を増やす条件

クヌギやコナラの成木の細根を増やす条件について検討した結果、クヌギなどの成木の細根生産は、根を切断する断根処理を7月よりも3月や5月の春に行うと増加する傾向にありました(図2)。

また、トリユフ菌が好むとされる高pH環境が細根生産に及ぼす影響も調査しました。石灰施与の効果はばらつきが大きいです。細根生産量が増加する場合もあり、細根の増加に悪い影響は与えない結果でした。

○感染苗木を植栽する

これらの結果を受けて、クヌギやコナラ林で3~5月に断根処理を行い、石灰を散布して国産トリユフの感染苗木を植栽しました(図3)。現在、50本程度を植栽していますが、今年の秋には成木にうまく感染して、菌根ができるかどうかを確認する予定です。菌根が確認できれば、栽培化に一步近づきます。成木にトリユフの菌が感染してもキノコが発生するまでには時間がかかるかもしれませんが、シイタケ原木生産を行う場所でも国産トリユフ生産もできればと考えています。



図1 国産の黒トリユフ



図3 クヌギ林に植栽した感染苗木

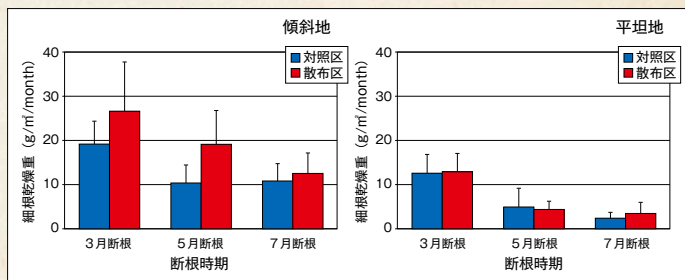


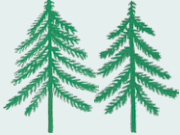
図2 断根時期と石灰施与がクヌギの細根生産量に及ぼす影響 (石灰施与は1.9kg/m²、平均+標準誤差、供試数7)

● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-331-2585

森林研究所まで



恵那地域における普及活動



■恵那農林事務所 安田 浩介

恵那農林事務所管内(恵那地域)は、岐阜県の東部に位置し、中津川市、恵那市の2市からなる地域です。森林面積は、約93千ヘクタールで、そのうち約8割にあたる72千ヘクタールが民有林です。

平成31年度から市町村が取り組むこととなる新たな森林経営管理制度及び森林環境譲与税(仮称)等に関する市と当所の検討状況、木材生産量拡大の取組状況等についてご紹介します。

① 新たな森林経営管理制度及び森林環境譲与税(仮称)の用途等に関する市との検討状況

本年7月4日に岐阜県庁にて新たな森林経営管理制度及び国版森林環境税(仮称)等に係る説明会が林野庁計画課の調査官を講師に開催されました。これにより、制度の詳細が判明したため、中津川市、恵那市はそれぞれ勉強会を行い、当方も参加し共に検討しました。

勉強会では、新たな森林経営管理制度の進め方、森林環境譲与税(仮称)を活用した事業の創設等が議題

となりました。森林組合から「森林技術者の定着が不安定なため、まず、担い手対策を講じてほしい。」等という意見もありましたが、「両市とも森林率が高いこともあり、森林環境譲与税(仮称)は主に森林整備に充てる方向で検討中です。そして、その森林整備は、新たな森林経営管理制度に基づき、管理されていない私有人工林の経営管理権を所有者の意向調査を経て市が設定し、市が実施する森林整備が主体となる見込みです。

また、森林整備を進めるうえで、森林環境譲与税(仮称)が財源といえども予算に限度があるため、実施区域の決定方法も明確にしておく必要があります。

加えて、経営管理されていない私有人工林は、相続が適切になされていないか、相続されていない場合の相続権者全ての探索や意向確認は可能か、またそのような森林はどの程度存在するか等不確定な部分が多いことも想定されます。

新たな森林経営管理制度及び森林環境譲与税(仮称)は、次年度から始まりです。このため、制度の具体的な実施方法、譲与税の用途等を早急

に定める必要があります。そのためにも両市へさらなる支援を続けていきたいと考えます。



▲中津川市での勉強会

② 木材生産量拡大の取組

① D材搬出促進

今まで、木材生産の際、造材後の末木枝条は不要なため林地内に放置されていました。

しかし、枝条を林地内に放置すると、次回施業の際、林地内への立入が困難となり、まず林内整理から始める必要があります。また、見た目も雑然として、森林所有者の感じる印象も良くありません。さらに、豪雨の際、枝条が流出

し排水施設や沢等に目詰まりし、鉄砲水の発生や排水施設破損のおそれもあります。

一方、岐阜県瑞穂市にある木質バイオマス発電所では燃料としてD材(末木枝条等)の使用量が増加しています。木質バイオマス発電の燃料は、用材として利用されない木材が主となりますが、チップ用材いわゆるC材は紙の原料として需要が重複するため、これまで利用があまり進んでいなかったD材の使用割合が高まっているためです。さらに、2020年には発電所2号機の稼働を計画しており、さらにD材の需要が高まることとなります。

前述の木質バイオマス発電所における恵那地域のD材割合は約1割を占めています。D材の搬出は一部の事業体に留まっています。

そこで、D材の搬出により未利用材を有効活用し、木材生産量拡大に繋げるため、「恵那地域D材搬出促進研修会」を7月25日に開催しました。場所は恵那市山岡町地内の恵南森林組合の搬出間伐現場、対象者は恵那管内の市職員と森林組合です。(株)バイオマスエナジー東海、恵南森林

組合他にご協力いただきました。

D材は市場価格が安価であり、かつ、かさばることから効率良く収集するためには、全木集材等によりD材を多量に集積し、大型収集車の進入可能な道沿いが最も適しています。研修地は農地や住宅等に囲まれた狭隘な施業地のため現場内に土場を確保することは困難でしたが、近隣に中間土場を確保しそこへ用材とともにD材も搬出していました。

今後、未利用材の有効活用を目指して、D材の搬出を促進していきたいと考えています。



▲D材搬出促進研修会(中間土場) 恵那市山岡町地内



▲D材搬出促進研修会(搬出間伐現場) 恵那市山岡町地内

②主伐再造林

一方、主伐再造林も木材生産量の拡大に繋がるため、その推進にも取り組んでいます。

恵那地域は、ヒノキ林が多く、主伐に適する大径林は少ないという条件を抱えています。

しかし、このような条件下でも対象となる候補地がないか公有林にて優先的に取り組み、それを私有林に普及していくことを考えました。

恵那市は、本年度、市内北部の中野方町地内で約1haの皆伐を予定しているため、次期実施箇所として恵南地域の恵那市有林の主伐再造林適地を提案することとしました。まず、候補地を森林簿や森林計画図等により、林道から近く、10歳級以上

の人工林がまとまって存在し、緩傾斜地で、森林経営計画が策定可能な林班配置であることを条件に調査しました。その結果、4箇所の候補地を選定できました。次に、その候補地を恵那市担当職員とともに現地調査しました。その結果、良質材で再造林費や保育費用を差し引いても収益が見込める適地が1箇所該当しました。今後は、その箇所の施業時期、年度別の施業区域、作業システム等について検討していく予定です。

また今後は、恵那市以外の公有林や生産森林組合有林等の大規模所有林についても適地を調査し、所有者に主伐再造林を働きかけていきたいと考えています。



▲恵那市有林主伐候補地 恵那市上矢作町地内

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0573-26-1111(代)

恵那農林事務所まで

所有者不明森林の解消に向けた自主研修会を開催

岐阜県地域森林監理士 樋崎達也(FOREST MEDIA WORKS株式会社)
岐阜県揖斐農林事務所林業課 森林整備係 下野俊彦



平成30年5月25日に揖斐川町役場において、森林経営管理法の運用にかかる研修会を、森林分野等を専門に活躍している品川尚子弁護士を招いて、岐阜県地域森林監理士と岐阜県揖斐農林事務所との共催で開催しました。

講師の選定は、岐阜県地域森林監理士の経験から「森林分野に精通し、法律用語を林業用語に変換してくれる弁護士はこの方のみです」との助言から品川弁護士に決定しました。

1. 森林経営管理法と「新しい森林管理システム」について

新しい森林管理システムは、これまで様々な理由で森林経営計画を策定できなかった森林において、市町村が、行政の持つリソースを活用して森林所有者を探索します。もし、探索できなかった場合でも、市町村が森林経営管理法を活用して、その森林に「経営管理権」を設定して管理ができるシステムです。

2. 森林経営管理法の運用方法について

森林組合等が森林整備を推進するうえで最も大きな障壁となっているのは「森林所有者問題」です。特に、共有林や所

所有者不明森林の所有者探索作業は、森林組合が取り組んでも手間のかかる作業です。手間をかけても、相続手続きが適切に行われていなかったりすると、実際の所有者まで到達できずに森林管理につながらないということが多くあります。また、森林所有者独自のプライベートな事情が存在する場合はより困難が伴います。このような状況下において市町村や林業事業者が手続きを進めていくうえで、法的な理解と手順が非常に重要になってきます。

品川弁護士からは、不明所有者の適切な探索、相続手続きがされていない森林の取り扱い手続き等を法的な見地から効率的に行うための方策や法的な限界について解説いただきました。

〈所有者不明地を公的に管理するにあたり、法的トラブルを避けるために法律家から薦めること〉

- ・森林経営管理法は、法律家が使わない簡単な方法で所有者探索を行い、森林経営管理権を設定することを可能にするようです。簡単な方法だけに、将来の法的トラブルのリスクもはらんでいます。

一方で、法律家を使うような方法は、難しいですが、将来覆されるおそれはほとんどありません。

その林地の面積や、森林経営計画の中での重要性、相続人の人数や同意の取り付けやすさなどを総合的に考慮して、どのような方法を取るか選択していった方がいいでしょうか。

- ・相続人探索は、きちんと戸籍を辿って、相続人全員の相続関係図を作成してください。この部分は、行政が責任を持って担当するか、専門家に委託してください。

- ・連絡が取れない「不確知」の人がいて、その林地が森林経営計画に重要な場合には、後から現れて権利を主張されないよう法的に認められる探し方しておくことを推奨します。この方法は、最初は難しく感じるかも知れませんが、2, 3回経験すればこのようなものかと「こつ」を掴めます。



法律用語に馴染みのない参加者に対して分かりやすく解説していただいたことで、参加者からは具体的な個別事象についての質問が多く出され、活発な意見交換が行われました。さらに、品川弁護士から、森林環境譲与税の効果的な活用や市町村の体制づくりについてもアドバイスを頂きました。

品川弁護士のように林業業界のことを理解していただき、法律用語を林業用語に変換してくれる方がいるととても安心できる、という意見が参加者から多く寄せられました。

3. 今後の岐阜県地域森林監理士に求められること

「岐阜県地域森林監理士」は、地域における森林の管理及び経営に必要な専門的知識を有し、これから森林整備の主体となる市町村に対する支援や民有林経営への助言等を行う人材です。

アンケート結果によると、岐阜県地域森林監理士には、「高い技術力が求められること」が分かります。今後、期待に込めていくためには、今回のような実践的な研修会の開催・参加を通じて自己研鑽を重ね、市町村行政・事業者支援を通じて、実践的な森林づくり、政策づくりに貢献していくことが求められています。

岐阜県地域森林監理士は現在5名が認定され、県内各地で活躍しています。名簿は「岐阜県地域森林監理士登録台帳」で検索してください。

● 詳細については 樋崎達也

(narazaki@forestmediaworks.com) 様へ

林業3団体による林野庁、県選出国会議員への 提案・要望活動を行いました

(公社)岐阜県山林協会、岐阜県森林組合連合会、岐阜県木材協同組合連合会は、毎年夏と冬の2回、林野庁及び県選出国会議員に対する「森林・林業・木材産業活性化推進に関する提案・要望活動」を行っています。今年も、夏要望として、8月3日(金)に、瀬上(公社)岐阜県山林協会副会長、正村岐阜県森林組合連合会副会長、藤沢岐阜県木材協同組合連合会副会長の3名が、



写真左から正村、牧元長官、瀬上、藤沢

牧元林野庁長官、本郷同次長、渡邊林政部長、織田森林整備部長等林野庁幹部と面談し、要望書を手渡し、岐阜県の森林・林業・木材産業の現状を説明すると共に平成31年度予算に対する提案・要望を行いました。また、7月豪雨被害の復旧に対する緊急要望も併せて行いました。

牧元長官からは「7月豪雨の森林被害の復旧に向け十分な支援をしていく。また、平成31年度予算の確保については精一杯やっていきたい」等前向きな意見が述べられました。

【山林協会 瀬上繁隆】

森林・林業関係イベントカレンダー(10~11月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
10月2日(火)~ 10月3日(水)	機械集材装置 運転業務 特別教育	●講習時間 2日 学科 8:50~16:00 3日 実技 8:30~17:30 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:17,200円(本代含む)(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	2日 学科 森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 3日 実技 美濃市曾代地内(予定) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
10月11日(木)	刈払機取扱作業者 安全衛生教育	●講習時間 学科 9:20~15:30 実技 15:30~16:30 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:11,340円(本代含む)(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
11月8日(木)~ 11月9日(金)	伐木・チェーンソー 作業従事者 特別教育	●講習時間 8日 学科 8:30~16:30 9日 実技 8:30~17:30 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:18,900円(本代含む)(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	8日 学科 森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 9日 実技 県森連岐阜林産物共販所(関市倉知字物見山) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
11月13日(火)~ 11月16日(金)	フォークリフト 運転技能講習 【受講資格】 自動車普通運転 免許所持者	●講習時間 1日目 学科 8:30~16:30 学科試験 16:30~17:30 2~4日 実技・試験 8:00~17:30 ●申 込:開催日の20日前まで ●受講料:31,860円(本代含む)(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	学科 伊自良中央公園(山県市大門912-1) 実技 ぎふ農協 旧伊自良共選場(山県市洞田127-5) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



このコラムの次ページに「市況」が載っています。そのページ右下には「木材用語一口メモ」の欄があります。地味なコーナーですが、この原稿は県産材流通課で作成することになっており、現在は私がこれを担当しています。毎月、締め切り間近に慌ててネタ探しをしている状況ですが、できる限りトレンドを意識した用語を取り上げるよう心がけています。

ところで、過去10年間で掲載回数が多かった用語は「KD材」で5回、次いで「機械等級区分」の4回でした。いずれも、木材の加工・流通に関する施策においては、今までもこれからも、キーワードとなる用語です。

さて、以下に過去10年間で掲載した用語のうち複数回登場したもののから10点、ピックアップしました。いくつご存じでしょうか?ちなみに、県産材流通課職員の正答率は…。当課の名誉に傷がつくといけませんので、ここでは伏せることにします。

- ①KD材、②機械等級区分、③中目、④ぎふ性能表示材、⑤LVL、⑥ラミナ、⑦羽柄材、⑧CLT、⑨役物、⑩F☆☆☆☆

「森林のたより」編集委員 古川 敦洋

イベント情報

連載

- 山の歳時記(159)
- 山のおじゃまむし(328)

地域の人

森の名手・名人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(71)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(69)

清流の国ぎふ森林・環境税

わがまちの森林・環境行政(23)

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

11月1日発行

11月号
予定

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1668回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,500	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
			16~18cm	11,700	—	
		4 m	20~22cm	13,800	—	
			24~28cm	12,500	18,000	
			30cm以上	12,000	25,000	
	ひのき	3 m	16~18cm	17,200	—	
			20cm以上	15,300	—	
		4 m	16~22cm	17,500	—	
			24~28cm	15,500	—	
			30cm以上	14,500	—	
第1244回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,000	—	
			24~28cm	11,500	—	
		30cm以上	11,000	22,200		
	ひのき	3 m	16~18cm	16,000	—	
			20~22cm	14,000	—	
		4 m	24~28cm	14,000	18,800	
	30cm以上		16,000	33,000		
	まっ	4 m	24~28cm	9,000	11,000	
			30cm以上	9,000	—	
		ひめこ	4 m	24~28cm	12,000	—
30cm以上				13,000	—	
くり	5 m	30cm以上	13,000	25,500		
		4 m	24cm以上	19,000	24,000	
	第1576回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~20cm	12,700	13,400
22~28cm				13,000	18,000	
30cm以上元			13,600	17,000		
ひのき		3 m	16~20cm	17,500	23,000	
			22~28cm	14,900	26,000	
		4 m	30cm以上元	18,500	25,000	
			13cm以下	9,000	—	
			22~28cm	15,500	35,000	
まっ		4 m	30cm以上元	20,000	60,000	
			6 m	18~20cm	27,600	—
	4 m	22~28cm梁	7,000	—		
9月6日	まっ	4 m	30cm以上元	9,000	—	



木材市場

全般的に横ばいで推移

【商況】

台風の影響も懸念され、活発な応札となった。スギ並材太物(50cm上~)3m需要あり、ヒノキ2m元曲がりは売りづらく造材の再検討を。合板向けスギ・ヒノキと製紙パルプ向け広葉樹原木は、納材規格変更となっており、予定される方は共販所担当者まで一報ください。製紙パルプ向け針葉樹、岐阜共販所トラックスケール(関市倉知地内)も受付します。(岐阜)

全般的に入荷が薄い状態。スギ太物4m欠陥材は売りづらい。マツ、ヒメコは相変わらず売り辛い。広葉樹は(良材は除く)弱い。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m・3m・4m・6mは、応札多く横ばい。ヒノキ並材は3m・4m(16~28cm)横ばい、6m(16~20cm)価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木、良材は応札多くやや高値、二番玉並材は3m・4m(16~28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(東濃)

製品卸売標準価格 (8月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松) 特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集 ウ成 ド材	柱	3000	105	105	国産5層	60,000	(1,980)	→
		3000	120	120	国産5層	61,000	(2,600)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (8月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	317	米栂	へム(アラスカ産)	299
	コースト(目荒)	324	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

木質ペレット

木材用語一メモ

おが粉やかな肩などを、直径6~9mm、長さ5~25mm程度の円筒形に圧縮成型した木質燃料で、主にストーブやボイラーの燃料として使用される。樹皮を除いたホワイトペレット、樹皮を主体としたパークペレット、樹皮を含めた全木ペレットがある。